

福祉サービス第三者評価結果

事業所名	特別養護老人ホーム 紫雲荘
------	---------------

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターおおいた

②第三者評価実施期日

平成29年12月6日・7日

③事業者情報

名称：特別養護老人ホーム 紫雲荘	種別：特別養護老人ホーム
代表者氏名：理事長 麻生亮一	定員（利用人数） 150名
所在地：〒879-7144 豊後大野市三重町本城2050番地	
TEL：0974-22-1010	

④総評

◇評価の高い点

○理念は、「福祉の心は無限であり、誠意のこもった実践こそ、福祉である」と作りあげ、「誠実・信頼・貢献」等と明文化している。また、理事長が、広報誌に詳しく解説し、職員や地域に理解してもらっている。

第三者評価を定期的（2年に一度）に受審され、評価結果をもとに課題を掲げている。管理者は、組織全体をリードするために、経営課題や問題点などの中・長期の計画書は「紫雲会の事業計画書」に具体化している。実践されやすいように、短期・中期・長期の計画書をつくり見直しができるようにしている。

経営状況の課題を明確にするために、組織体制や設備、職員数・財務状況の現状把握に努めている。また、監事や会計事務所の監査を年に2回受け、経営課題を明らかにして、解決に向け具体化している。

○管理者は、自らの責任や役割を表明し事業計画書に記載しており、職員に対して会議を通じて表明している。今後、更に平常時のみならず、災害や事故における管理者の役割や責任について、不在時の権限委任等を含めて明確化することが大切である。

人材の育成に積極的に取り組み、事業計画書にも明文化されている。専門職として、介護福祉士78名・ケアマネジャー20人・リハビリスタッフ1名・看護師6名・社会福祉士など働きながら資格取得ができるような仕組みがある。また、職員の在籍年数も長く、利用者との馴染みの関係が構築されている。

○サービスが移行する際には説明を行っている。サービス終了後の相談窓口は相談員が担っており、家族はサービス終了後も相談に訪れている。

施設独自の様式で「生活活動等個別日誌」に日々の支援が記録されている。記録から収集された情報をリーダーがとりまとめて、検討を行うことにより、利用者を理解する為の工夫がなされている。

地域のボランティアとのつながりや給食の食材は地元の農家より仕入れ、高齢者の生きがいに貢献している。また、法人は地域住民による「地域の風」と題して触れ合いの場を設けている。

利用者との話し合い会、職員の接遇や施設的环境など家族へ無記名でのアンケートを行っている。また、栄養士が月一回の懇談会で嗜好調査を口頭で行っている。利用者の満足度向上にもつながり、地元独自の慣れ親しんだメニューを提供している。提供されている食事の形態は、常食を目で見て楽しんだ後にミキサーで個別の状態に合わせて形態を変えて提供することで、経口摂取の維持と食事への楽しみを継続するために惜しみない努力を行っている。

○フェースシートや利用者一人ひとりの一日の過ごし方が記録された24時間シート、生活活動一覧により利用者の意向を尊重した生活を送ることができるように工夫している。

利用者の状態に合わせた用具を活用してコミュニケーションを図っている。ジェスチャーでも意思疎通を図ることができるように日頃からの関係性を構築している。

○アセスメントや24時間シートに基づいて状態にあった排泄支援を行っている。また、排泄をチェックして記録をすることで健康状態の確認をしている。16のユニットの中で、要介護度は殆どが介護度4～5度であるが個浴やトイレ誘導での排泄などの支援が行われており、積極的にトイレでの排泄を行うことで質の高い排泄支援を実践している。

ベッドからの転落防止のために低床ベッドの購入など利用者の状態に合わせた福祉用具を活用している。

○地元の食材を使用しており、献立は季節感があり地元ならではのメニューとなるような工夫がなされている。また、月一回のペースで職員からの聞き取りにより嗜好調査を行うなど、積極的に食事に対して満足度を高める努力を行っている。常食を目で見て楽しんだ後に個別の状態に合わせて食事を提供することで、経口摂取の維持に向けての惜しみない努力を行っている。

○看取り委員会を設置しており看取りにおける指針を策定している。入所時や終末期を迎えた利用者または家族に終末期の意向を確認している。確認された意向は介護計画書に反映されている。

○アセスメントや24時間シートに基づいて個別性のある対応に反映されており、

不安を感じることがないような支援が行われている。また、内部研修や外部研修を行い認知症に関する知識や技術の習得に余念がない。使い慣れたものを居室に持ち込み落ち着くことができることで落ち着くことができる環境を整備している。

○二名の専門のレクリエーションを実施する職員を配置しており心身の活性化を図っている。また、看護師が機能訓練を実施して移動の機能の変化など月一回の評価を行っている。

○感染症予防のマニュアルを整備しており、ノロウイルスやインフルエンザなど個々の感染や食中毒に対して、手洗いの励行や使用する薬剤など具体的な対応策が記載されている。また、インフルエンザの予防接種の費用は施設が負担しており、予防に対しての積極的な取り組みをしている。

○備品整備の営繕担当が日常的な点検を行い故障などに早急に対応している。また、ベッドからの転落防止のために低床ベッドの購入など利用者の状態に合わせた福祉用具を活用している。

○担当職員や相談員、看護師など内容により専門職から家族に状況の報告を行い、施設生活に対して安心ができるような支援に取り組んでいる。具体的に、家族への年2回の定期的な近況の様子の手紙や、家族会で積極的な交流を図っている。

◇改善を求められる点

○福祉サービスの質の向上を全職員で取り組んでいる。改善策や計画の見直しが行われており更なる取り組みを期待する。

○施設独自の38項目の「ストレスチェック表」を用いて、衛生管理者が主体となり、職員一人ひとりの意向を把握している。施設長や部長クラスで総合的な人事管理が行われているものの、人事考課制度は導入されておらず人事管理の透明性が図られることに期待したい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

定期的に第三者評価を受審していますが、毎回新たな気づきを得ることができています。

施設の理念である「安心」「安全」「元気」を目指し、今後も職員一丸となってサービスの向上に努めていきたいと思っております。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果（別紙）